



あうんの呼吸

あうんの呼吸とは、気持ちが一致していること、心の通じた関係という意味から、お客様とスタッフで心をつなげて、ご満足いただける住みよい家作りをしていくという気持ちを込めました。

<今月のトピック>

☆リフォーム施行例

☆4コマ漫画

☆メリットいっぱいの「二世帯住宅」という選択

VOL. 16 平成25年 12月号

あうん工房

902-0066

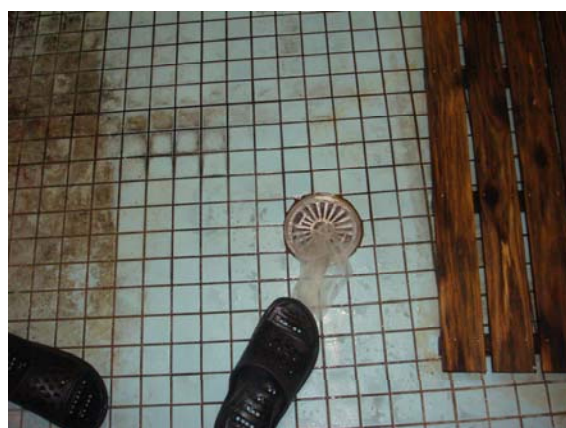
沖縄県那覇市大道90-4

通話料無料の
フリーダイヤル

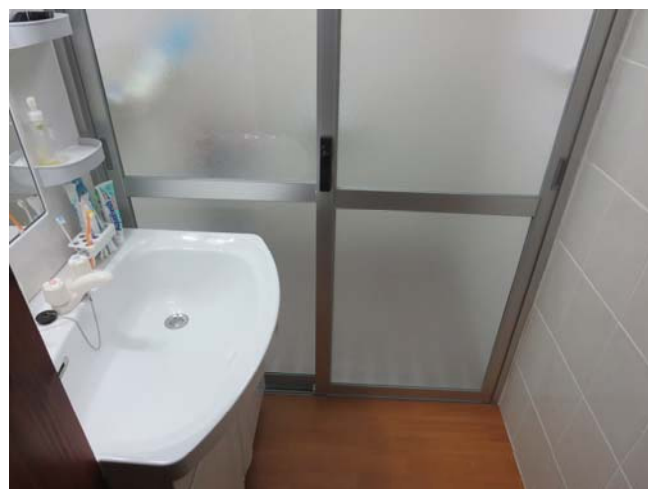
0120-72-4152

リフォーム施行例

BEFORE



AFTER

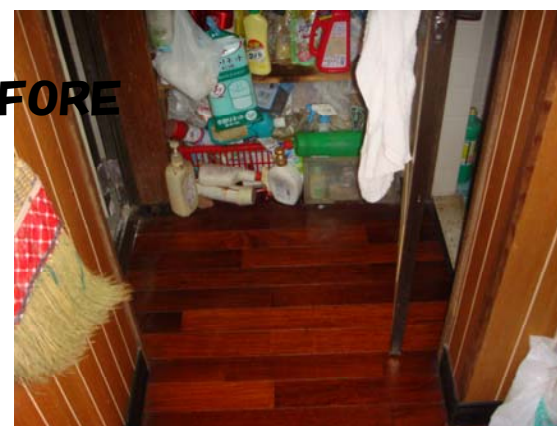


既設浴室を洗面室とシャワー室に改装して、和式トイレを洋室トイレに改装しました。
浴室は壁・床のタイルを張替して、手洗器を洗面化粧台に取り換えました。
トイレは、和式のトイレを洋式にトイレに取り換えました。
2階部分のマンションだったので、床タイルを解体して、ウレタン防水をしてからタイルを張り直しました。
洗面室入口は、手洗器から洗面化粧台に変えたので、出幅が大きくなったので、入口部分の棚を壊し出入口部分を広げ使い勝手が良い間取りに変更しました。

BEFORE



BEFORE



倍返しだ！

最近、何かにつけ、「倍返しだ！」を言いたい様子の長男。

倍返しだ！

気分は、半沢直樹

兄弟喧嘩の時も

うえっん。

倍返しだ！

母ちゃんに怒られても

倍返しだ！

あっかん

父ちゃんに怒られたら・・・

こっそり・・・

ちよい弱
半沢直樹

倍返しだ・・・

メリットいっぱいの「二世帯住宅」という選択

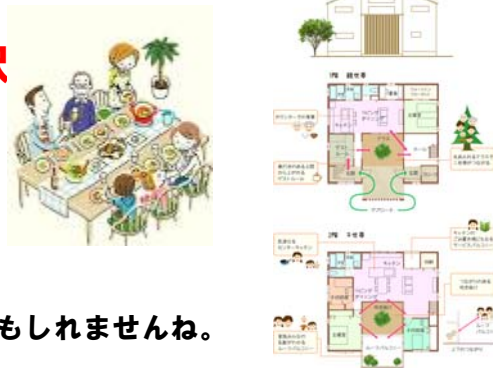
リフォームで2世帯住宅が注目されています。

気になるプライバシーも家づくりの工夫次第でクリア。

親と子がサポートし合うライフスタイルが

子育てや経済面などで様々なメリットを生み出します。

リフォームを考える際に二世帯住宅という選択肢、考えてもいいかもしれませんね。



子世帯のマイホーム願望と親世帯のリフォーム願望が合致

1970年代後半から増えてきた二世帯住宅。

これには土地の価格が高騰し、若い世代が単独でマイホームを手に入れることが難しくなったことが背景にあります。その後、女性の社会参加が進み、またバブル崩壊などの経済的な事情もあって共働き世帯が増えたことや高齢化社会が進み、二世帯住宅にする人が増えていきます。

親世帯は、定年後の長い生活を見据えると、住み慣れた我が家の老朽化や使い勝手が気になりだします。小さな子供を持つ子世帯は、そろそろマイホームを・・・と考えますが、資金に余裕がなかったり、土地が見つからなかったり。そういった、親世帯の「リフォームしたい」、子世帯の「子育てを手伝ってほしい」という両方のニーズが重なって、二世帯住宅という選択肢が出てくるようです。

最近では、妻や夫の両親との同居だけでなく、子世帯の兄弟姉妹も同居する多世帯型も多くなっています。みんなで同居する二世帯住宅は、さまざまなメリットがあります。

親世帯は、何かあったときの安心が得られたり、子世帯は、子供の面倒を見てもらえたり、お互いに助かる場面がたくさん。

経済的なメリットでは、子世帯がローンを組んで、親世帯にも負担してもらったり、キッチンが共用の場合は、料理を一緒にすることで光熱費が削減することもあります。

二世帯住宅は、税制面の優遇や将来の家賃収入も

二世帯にリフォームする時に、省エネ改修や耐震改修などを行った場合、所得税の控除が受けられることもあります。また、階段や廊下に手すりを設置したり、住まいの段差を改修するなどのバリアフリー改修を行った場合も所得税の控除や固定資産税の減税などの優遇が受けられます。

二世帯住宅は、通常の住宅より建築費用は高くなりますが、一緒に暮らすことで、光熱費などのランニングコストが削減できる他、何と言っても何にも代えがたいお互いの安心感が得られます。

また、ライフスタイルの変化などで、いずれスペースが空いてしまうこともリフォームをする際に考慮しておきたいことです。賃貸を考えている場合は、独立性の高い住宅にしておく必要があります。

例えば、玄関を別に設けたり、電気などの光熱費のメーターを分けておくと、将来、賃貸に変更がしやすくなります。

二世帯住宅は「暮らしが豊かになる」住まい

昔は、親の老後考えた二世帯住宅でしたが、今の親世帯は、孫の成長を楽しみに暮らすことができ、子世帯は、子供に基本的な世の中のルールやしつけなどを親世帯から自然と学ぶ環境を得ることができます。経済的なメリットや税制優遇の目に見えるメリットだけでなく、一緒に生活する楽しみや豊かさが二世帯住宅の暮らしにはあるようです。



二世帯住宅の多様化

二世帯住宅のプランは、家族構成や生活スタイルによっていろいろなパターンが考えられます。夫の両親と同居の場合では、共用部を少なくし、キッチンを共用する場合も各世帯用の冷蔵庫を設けるなどの工夫をしないとよいようです。

妻の両親と同居の場合では、夫の居場所をつくるのがポイントになります。

帰宅の時間や家事の時間帯がずれる場合は、玄関は一緒でも水まわりは別々にしたり、親の就寝時間がわかるように光がもれるような工夫をしたり、建築上の工夫で二世帯住宅は快適になります。狭小地の場合でもプランや設備の工夫で使いやすく、明るい二世帯住宅にすることができます。

二世帯のリフォームの工夫

二世帯住宅のプランは、親世帯が年老いた数年先を考えて・・・と思う方は多いようですが、子供が大きくなった時のことも考えなくてはなりません。必ず、リビングを隔てて子供部屋に入るようなリビング階段のある間取りもいいのですが、リビングを回避できる動線をつくってあげることも大切になります。

その場合は、完全に孤立させるのではなく、どこかでつながっているような間取りを考えます。

二世帯住宅のプランは、何通りも考えられるので、先のことを考えて可変できるスタイルにするとよいようです。

設備の工夫で二世帯住宅はもっと快適に

世帯、世代で考え方が違うのは当たり前。違いを受け入れて暮らすために設計だけでなく、設備の工夫で解決することもあります。例えば、玄関に家族の靴がいっぱいになる場合、大きいシューズクローゼットで世帯ごとにスッキリ収納できる工夫をしたり、生活時間帯のズレで生活音が気になる場合は、防音の床材で音を押しやる工夫をしたり、いつも一緒の部屋はちょっと疲れる場合、引戸で普段は別々、休日はみんなで集まれる空間にしたり、プライベート感を保ちつつ、お互いの気配がわかる様に建具の採光部分を透明ガラスにするなど、洗面所の混雑の問題は、大きな鏡と洗面ボウル2つ設置で解決したり、光熱費は世帯ごとに分けたい場合、インターホンと一体型のエネルギーモニターで各世帯の電気使用量のチェックできるものを設置したりと設備で工夫することで二世帯住宅がもっと快適になります。

リフォームで親も子供も孫もうれしい二世帯住宅

昔は、どこの子供も自分の子供と同じように気にかけてたり、叱ったり・・・。

最近の二世帯住宅は、この時代のスタイルに近いのかもしれませんが。

一緒に暮らすことで問題になる部分はプランや設備の工夫で解決し、いい部分はお互いに有効利用し、足りない部分は助け合う。お互いを認め合って尊重しながら暮らす最近の二世帯住宅は、親世帯も子世帯もみんながハッピーな住まいです。リフォームを考える時には、二世帯住宅を考えてみませんか。



アパートの賃貸・管理・不動産のことならあうんほ一むにお任せ下さい

 (株) あうんほ一む

お問い合わせはフリーダイヤル☎0120-72-4103 まで